

大学生アスリートにおけるキャリアトランジション

～進路選択に関する考察～

スポーツコミュニケーションゼミナール 1313039 清水 佑紀

1. 研究動機・研究目的

アスリートにとって、競技引退は不可避のできごとであり、心理的、身体的に大きな変容をもたらす。そのため、アスリートが早い段階で、セカンドキャリアについて考えることは非常に重要である。

スポーツ基本計画では、トップスポーツと地域におけるスポーツの連携・協働の推進に関して、アスリートが自身のセカンドキャリアに関して漠然とした不安を抱いていること、アスリートのデュアルキャリアに関して競技団体による十分なサポートが行われていないこと、の2つを問題点としてあげている。（文部科学省, 2012）

さらに日本では、少子化に伴い、大学側が経営戦略として非体育会系学部にも国内トップレベルの学生を受け入れ始めたことによって、体育系大学生数は増加傾向にある。そのため、学生アスリートに特化した対策を練り、学生アスリートのスムーズなキャリアトランジションを促進することは、アスリートのセカンドキャリア問題を解決するために非常に有効である。

本研究では、学生アスリートのセカンドキャリアやデュアルキャリアに対する意識、進路選択の際に影響を与える要因を分析し、キャリアトランジションをスムーズすることによって、学生アスリートより高いレベルでの競技活動への自己投入を実現させ、トップスポーツでの経験を社会へ還元するための足掛かりとなることを目的とする。

2. 研究方法

現在、順天堂大学体育会系運動部（体操競技部、バレーボール部）に所属している、学生アスリート8名に対し、キャリアアンカーや、キャリアトランジションの現状を具体的に把握するための、半構造化インタビューを行った。

<質問項目>

1. 競技開始年齢と、中学、高校、大学それぞれの主な競技実績
2. 進路先（実業団、教員、一般企業、など）
3. 自身のセカンドキャリアに関して考え始めた時期
4. 進路を選択する際に、重要視したもの（キャリアアンカー）
5. 進路を選択する際に、不安に感じたこと
6. また、不安を感じた際に、相談した相手（家族、友人、部活の監督・コーチ）
7. キャリアモデルとなった人物の有無。またキャリアモデルとの関係性
8. 今後身に付けたい技術や知識。今後の目標

9. 大学生生活や競技生活から得たもので、今後、社会人として働くうえで役立つと思う能力や知識

インタビュー調査後に、インタビュー内容を文字化し、複数回にわたり各項目の内容を簡略化することで、内容を要約した。具体的なデータ分析方法として、グラウンデッド・セオリーアプローチ (Ground Theory Approach) を採用した。

3. 主な結果と考察

キャリアアンカーについて、すべての学生アスリートが<専門・職能別コンピタンス>を最も重要視したと回答した。次に多かったのは、<純粋な挑戦>、<奉仕・社会貢献>、<生活様式>、<保障・安全>の順であった。

進路を選択する時期は、ほとんどが大学生生活後半（2年から3年時）であると回答しており、在学中の学生アスリートのセカンドキャリア意識は低かった。また、進路選択の際には、大学生生活や競技生活を通して自身が積み重ねた経験が非常に大きな選択要因となり、両親（とくに父親）、部活動の監督・コーチ、先輩など、重要な他者からの影響が非常に大きかった。また、学生アスリートのキャリアトランジションには不安がつきものであり、その不安は非常に具体的なものであった。

さらに、今後の展望として、競技の技術や指導力に関する知識を増やしたいという意見が多く、アスリートが持つべきだと言われている「責任感と自己管理能力」、「困難の対応力や克服力」は、競技生活を通して得たと感じていた。

4. 結論

学生アスリートのキャリアトランジションをスムーズにするためには、早い段階でキャリアを考えるきっかけをつくること、部活動や競技成績のパフォーマンスだけでなく、精神的な発達、学力の向上、職業の開発などを充実させること、今もっている専門的な技術や知識を高めることが重要である。さらに、持続的、一時的などの差はあるにしても、キャリアモデルの存在はアスリートに大きな影響を与えていた。

本研究では国際大会や全国大会に出場経験のある、トップレベルの学生アスリートを対象としたが、今後は、地方大会出場などレベルの低い学生アスリートに対しても調査する必要がある、各スポーツ選手のキャリア意識に対応した個別的なキャリア支援の在り方が必要である。

5. 卒業論文の執筆を終えて

本論文の作成にあたり、多大なるご指導とご指摘をいただきました、主査の伊藤真紀先生に深く感謝致します。また、お忙しい中、インタビュー調査に協力してくださった学生アスリートのみなさまにこの場を借りて感謝申し上げます。ご協力ありがとうございました。